



3年生が音楽で「花」の二部合唱に取り組んでいました。パートごとにリーダーを決めて、練習を行います。3年生にもなると合唱の学習の進め方は経験豊富です。歌が得意な生徒も、そうでない生徒も、みんなで協力してよりよい合唱をつくりあげていきます。

「花」は、滝廉太郎作曲で、日本の音楽教育の中では長く採用されている歌です。そのほかにも、「荒城の月」や「箱根八里」など、滝廉太郎の楽曲は教科書のところどころに出てくるので、世代を超えて親しまれています。一方で、文部省唱歌と呼ばれている楽曲があります。これは、明治から昭和にかけて教科書に掲載されてきた楽曲です。「われは海の子」「虫の声」「茶摘み」「仰げば尊し」など、題名を聞いただけですぐに歌詞やメロディーが頭に浮かんでくる有名な歌ばかりです。文部省唱歌は、すべて日本人による新作の歌として尋常小学唱歌に掲載されました。国が作った歌であることを強調するためか、どの曲についても作曲者は明かされていません。



2年生の理科は、原子についての学習でした。物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを学びます。本時は、アルミニウムの原子を取り上げましたアルミニウムの原子は、電子顕微鏡でないと確認できませんが、その大きさは 0.14nm （ナノメートル）、重さは $0.00000000000000000000000045\text{g}$ です。あまりに微細で実感できるようなものではありません。授業では、アルミニウムできている1円玉と重さを比較しました。1円玉の重さは 1g ですが、 $22000000000000000000000000$ 個（220垓^{がい}個）の原子が集まってできていることになります。これも実感することは難しいですね。



1年生の社会科は、地理的分野の学習でした。本時の目標は、時差の計算ができるようになることです。太陽は、1時間で15度動くので、2地点の経度の差を15で割るのが時差計算の基本です。例えば、ロンドンは経度0度で、日本は東経135度なので、その差は135度です。これを15で割ると9になります。よって、日本とロンドンとの時差は9時間になるというわけです。ここに、東経・西経・日付変更線を考慮し、さらに飛行機で移動した場合などの条件を足していくと、時差計算もかなり複雑になります。生徒たちは、グループで知恵を出し合いながら、時差計算に挑んでいました。



体育祭の団練習が始まりました。今日は、大縄跳びとリレーの練習を行いました。リレーは、本番さながらの盛り上がりでした。午後の日差しが強く照り付けていましたが、みんな汗をかきながら真剣な表情で取り組んでいました。

